

建設通信新聞

シニア 中・韓でシニア層活用 実務指導通じ雇用創出

ヘッドハンティングを手掛けるサーチファーム・ジャパングループのシニアズ(本社・東京都千代田区、三上俊輔社長)は、シニア層の人材事業を海外展開する。技術分野、海外展開の専門家を活用して、必要とする企業に実務を指導しよつといつもので、新興国で働きたいといった要

望を持つシニア層の増加と海外企業からの人材ニーズが合致したことを受けて事業展開することにした。2013年3月までにアジアに2つの拠点を設ける予定で、候補地として韓国と中国を検討している。業容を拡大するとともに社員を増員し、13年3月期に売上高2億円を目指すことに

している。

シニアズは、団塊世代の大量退職が本格化することを踏まえ、11年5月に設立、定年退職後、年金受給前の世代を「RAM P世代(Retirement Age to Miss Pension)」と名付け、専門のスキルを持ったシニア層を企業に紹介するRAM P事業を展開している。

「シニアの人材を活用して業容拡大や改善を図りたい企業のニーズに応えると同時に、定年という制度に縛られることなく、プロフェッショナルな経験を持つシニア層の新しい働き方として、新たな雇用を創出する」(同社)。

技術分野は大企業から、海外展開は中小企業から引き合いが多く、現在プロフェッショナル約150人が登録、アドバイザリー業務だけでなく、実務を担う人材を紹介する。

「企業の課題を解決し、大幅な経費削減を実現したケースなど、既に成功例も出ている」(同社)という。